








病害虫発生予察情報予報第9号(12月の予報)

佐賀県農業技術防除センター

I. 予報の概要および各作物の特記事項

作物名	病害虫名 ^{注1)}	12月の予想発生量 ^{注2)} (平年比)	予報対象の病害虫 (抜粋)
タマネギ	べと病	並	 タマネギ べと病 一次感染株
	ボトリチス葉枯症	並	
イチゴ (本圃)	ハダニ類	並	 ハダニ類
	うどんこ病	やや少	
	灰色かび病	やや少	
	アブラムシ類	やや少	
	1. ハダニ類 一部、多発圃場が認められる。薬剤防除の際は、下葉や葉裏まで薬液が付着するように十分量を丁寧に散布する。また、天敵カブリダニ類を導入した圃場では、気門封鎖剤などの天敵に影響が小さい薬剤を併用して、ハダニ類を低密度に維持する。 2. 灰色かび病 こまめな換気により、適正な湿度管理に努める。また、「いちごさん」では受粉後の花弁が外れにくく、果実での被害が発生しやすいため、プロアー等を用い定期的に花弁を除去する。 3. コナジラミ類 多発すると防除が困難になり、葉や果実にすす病が生じるため、気門封鎖剤などの蜜蜂への影響が小さい薬剤を用いて低密度時から防除する。		

作物名	病虫害名 ^{注1)}	12月の予想発生量 ^{注2)} (平年比)	予報対象の病虫害 (抜粋)
キュウリ	べと病	やや少	 コナジラミ類
	うどんこ病	やや少	
	褐斑病	並	
	アザミウマ類	多	
	コナジラミ類	多	
<p>1. ミナミキイロアザミウマ：黄化えそ病、タバココナジラミ：退緑黄化病 コナジラミ類やアザミウマ類の発生が多い。また、これらが媒介するウイルス病の発生がみられている。これらの虫を次作に持ち越さないため、薬剤防除を栽培後期まで継続するとともに、植え替え時には、施設内での株の枯死処理および施設密閉処理を十分な期間確保して実施する。本圃初期の防除対策は、令和5年9月11日付け病害虫対策資料第10号参照。</p> <p>2. 褐斑病 発生圃場では、本病の分生子がハウス部材やマルチ等の栽培資材上に付着し、次作の伝染源となることから、薬剤防除を栽培終期まで継続するとともに、次作の定植初期からの予防防除を徹底する。</p>			
トマト	葉かび病	やや少	  黄化葉巻病 黄化病
	灰色かび病	やや少	
	コナジラミ類	やや多	
<p>1. コナジラミ類：黄化葉巻病、黄化病 コナジラミ類の発生が増加している。本虫の幼虫・蛹は中～下位葉に寄生していることが多いので、不要な葉は除去し、適切に処分する。ウイルス病の罹病株を認めた場合は、早急に除去処分するとともに、コナジラミ類に対する薬剤防除を徹底する。</p> <p>2. 葉かび病、灰色かび病 発病部位の早期除去、予防的な薬剤散布、適切な湿度管理を組み合わせで防除する。</p>			
キャベツ	菌核病	やや少	 チョウ目害虫 (ウババ類幼虫)
	黒腐病	やや少	
	アブラムシ類	やや多	
	チョウ目害虫	並	
<p>1. 菌核病 冬春どりキャベツにおける本病の主な防除適期は、土壌中の菌核からの子のう盤の形成が増加する11～12月頃と推定されることから、この時期の予防散布を徹底する。</p>			
アスパラガス	<p>1. 茎枯病、褐斑病、斑点病、アザミウマ類、ハダニ類 本年は、褐斑病とハダニ類の発生が多かった。特に、これら病虫害を次作に持ち越さないよう、茎葉刈取後の残さは圃場外へ持ち出し適切に処分するとともに、圃場全面をバーナーで丁寧に焼却する。</p>		

作物名	病虫害名 ^{注1)}	12月の予想発生量 ^{注2)} (平年比)	予報対象の病虫害 (抜粋)
キク	白さび病	やや少	 ハダニ類
	アザミウマ類	少	
	アブラムシ類	並	
	ハダニ類	並	
	ハモグリバエ類	並	
	チョウ目害虫	並	
	1. ハダニ類 一部圃場で発生が多い。多発すると防除が困難となるため、低密度時からの防除を徹底する。		

注1) 病虫害名に網掛けをしたものについては、予報の根拠とした内容を記載しています。

注2) 予想発生量については、平年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病虫害について「平年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。

注3) 防除対策については「佐賀県病虫害防除のてびき」も参照してください。

佐賀県病虫害防除のてびき掲載アドレス

https://www.pref.saga.lg.jp/ki_ji00321928/index.html

QRコード→



II. 予報の内容・根拠等について

予報内容（来月の予想発生量）

- 平成（過去 10 年間）と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

予報内容の根拠

- 農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。
○ 発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、(－)：少発生、(－～±)：やや少発生、(±)：並発生、(±～＋)：やや多発生、(＋)：多発生として示しています。

防除上注意すべき事項

- 各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「県防除のてびき」をご参照ください（2 ページの注釈にリンクが有ります）。

写真

- 1～2 ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。
4 ページ目以降：定期調査時の各作物の生育状況を掲載しています。

12 月の気象条件

- 病害虫の発生に関与する 12 月の気象条件については、福岡管区気象台発表の 1 ヶ月予報（令和 5 年 11 月 23 日）を基に、「気温：平年よりやや低い」、「降水量：平年より少ない」と判断しています。

気象予報による要素別確率(%) 及び病害虫の発生に関与する気象条件

要素	1 ヶ月予報における 12 月の気象予報（確率予報%）			病害虫の発生に関与する気象条件（平年比）
	低い(少ない)	平年並 (佐賀市の平年値)	高い(多い)	
気温	40	40 (7.8℃)	20	やや低い
降水量	50	30 (59.5 mm)	20	少ない

Ⅲ. 12月の予報

タマネギ

[【概要に戻る】](#)

定期調査 20 育苗圃場、防除員 4 育苗圃場
調査日：11月13日～22日



定期調査圃場(苗床)の様子

1. べと病

1) 予報の内容

発生量：平年並

(12月に発病することはまされたが、苗床あるいは本圃で感染するリスクがある。)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況 (苗床)

発生株率：0% (平年0%、前年0%)

平年比：並 (±)

(2) 圃場の菌密度 (本圃)

前年の発生株率・発生圃場率はともに高く、本圃の菌密度は高いと推察される。(±~+) (図2参照)

(3) 12月の気象予報

降水量は少なく、少発生の条件 (ー)

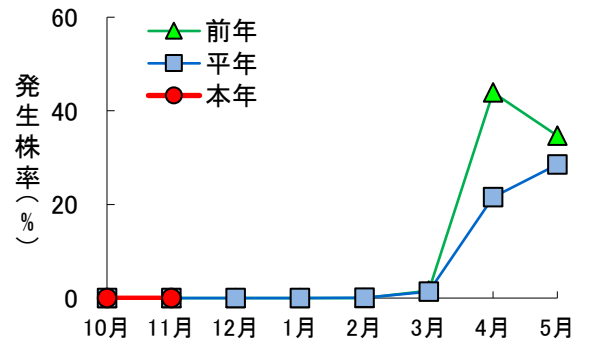


図1 タマネギでのべと病の発生推移

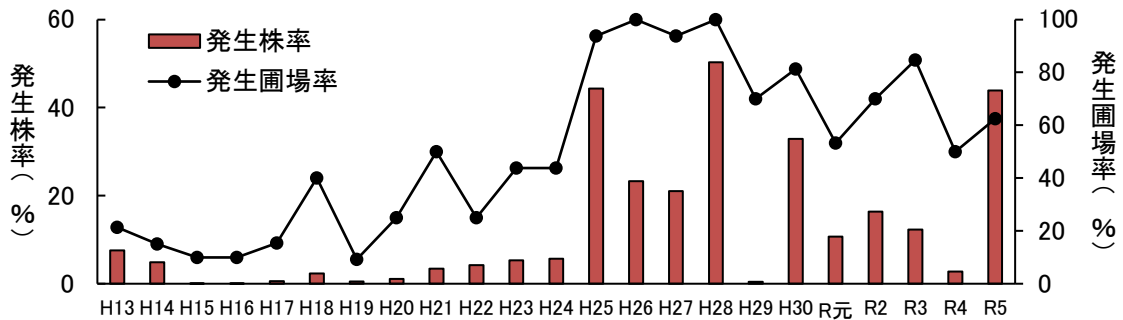


図2 タマネギ本圃でのべと病の発生圃場率と発生株率の年次推移 (4月下旬の定期調査結果)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

イチゴ（本圃）

[【概要に戻る】](#)

定期調査 10 圃場、防除員 6 圃場
調査日：11 月 17～21 日



定期調査圃場の様子

1. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図 1 参照）

発生株率：16.8%（平年 12.3%、前年 16.5%）

平年比：並（±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

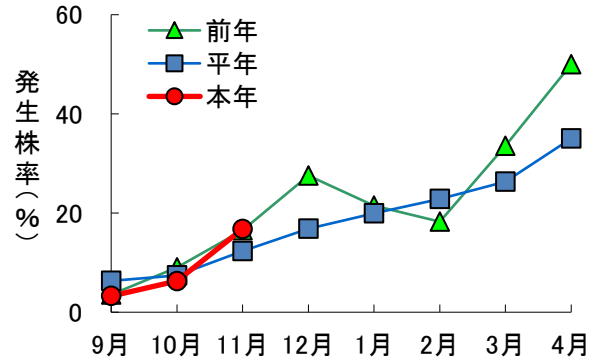


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

2. うどんこ病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図 1 参照）

発生株率：0%（平年 4.6%、前年 0.5%）

平年比：並（±）

(2) 12月の気象予報

降水量は少なく、少発生の条件（-）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 定期的に 10～14 日間隔の薬剤防除を実施する。

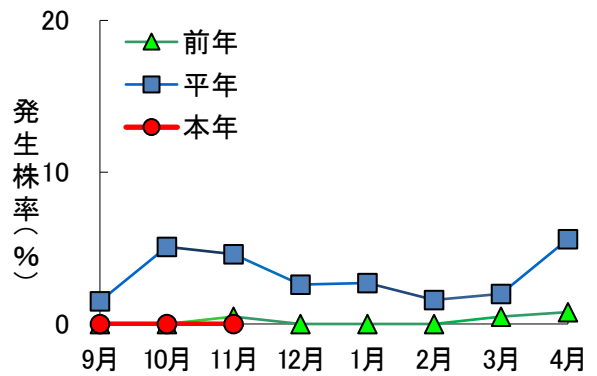


図1 イチゴうどんこ病の発生推移

キュウリ

[【概要に戻る】](#)

定期調査 3 圃場、防除員 4 圃場
調査日：11月17日～21日



定期調査圃場の様子

1. アザミウマ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図 1 参照）

発生株率：14.3%（平年 5.7%、前年 15.0%）

平年比：多（+）

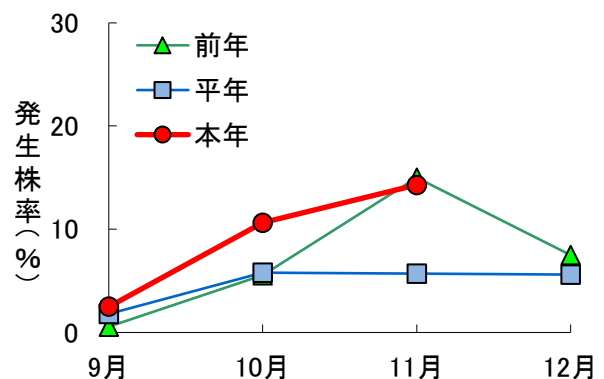


図1 アザミウマ類のキュウリでの発生推移

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

2. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：46.4%（平年18.2%、前年63.3%）

平年比：多〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

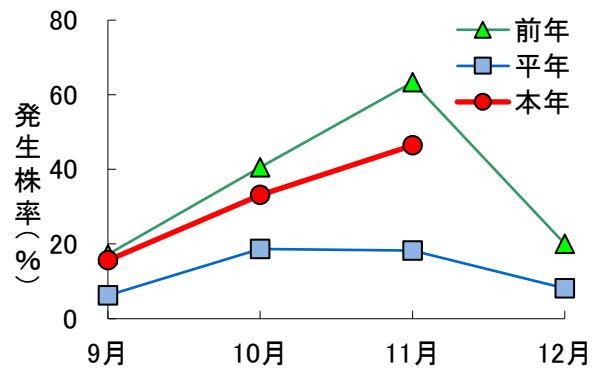


図1 コナジラミ類のキュウリでの発生推移

トマト

[【概要に戻る】](#)

定期調査 6 圃場、防除員 4 圃場

調査日：11月17～21日



1. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：10.5%（平年6.0%、前年15.5%）

平年比：やや多〈±～+〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

定期調査圃場の様子

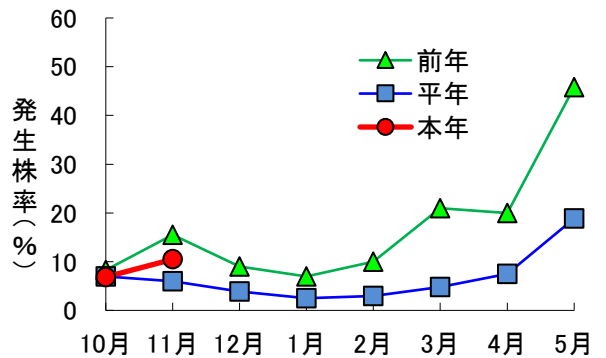


図1 コナジラミ類のトマトでの発生推移

キャベツ

[【概要に戻る】](#)

定期調査 8 圃場

調査日：11月17日～21日



定期調査圃場の様子

1. 菌核病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：0%（平年0%、前年0%）

平年比：並（±）

(2) 12月の気象予報

降水量は少なく、少発生の条件（-）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

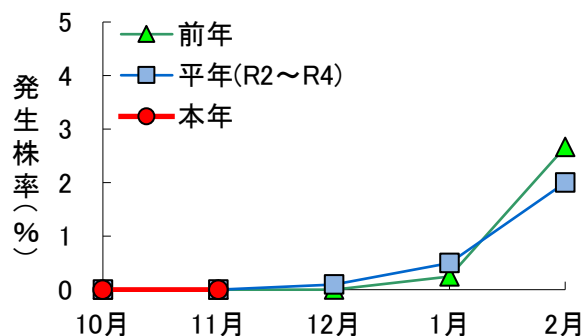


図1 キャベツ菌核病の発生推移

2. アブラムシ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：1.9%（平年1.0%、前年1.3%）

平年比：やや多（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 早期発見に努め、低密度時からの防除を行う。

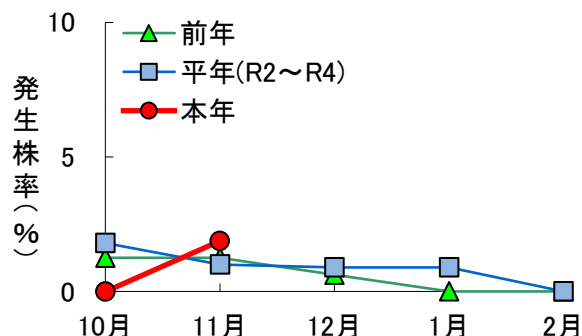


図1 キャベツでのアブラムシ類の発生推移

キク

[【概要に戻る】](#)

定期調査 8 圃場

調査日：11月17～21日



1. 白さび病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：0%（平年1.3%、前年0%）

平年比：並（±）

定期調査圃場の様子

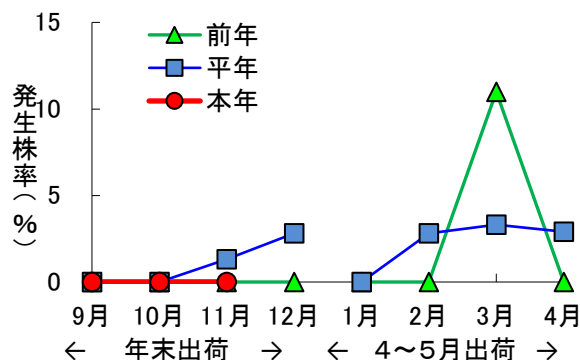


図1 キク白さび病の発生推移

(2) 12月の気象予報

降水量は少なく、少発生の条件〈ー〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 施設内が多湿にならないように適宜換気を図るとともに、発生前から薬剤を定期的に散布する。散布する際は、葉裏や下位葉にも薬剤が十分かかるように散布する。

2. アザミウマ類 (クダハアザミウマ、ミナキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ)

1) 予報の内容

発生量：平年より少ない

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1 参照)

発生株率：0% (平年 4.0%、前年 2.3%)

平年比：少〈ー〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生状況をよく確認し、低密度からの防除を徹底する。

本虫は、薬剤の到達しにくい葉裏などに寄生しているため、散布むらがないよう、十分量を丁寧に散布する。

(2) 圃場周辺の雑草は発生源となるため、除草を徹底する。

(3) ミカンキイロアザミウマは、キクえそ病 (TSW)・茎えそ病 (CSNV) のウイルスを媒介する。発生株を認めた場合は速やかに取り除き、媒介虫に対する防除を徹底する。

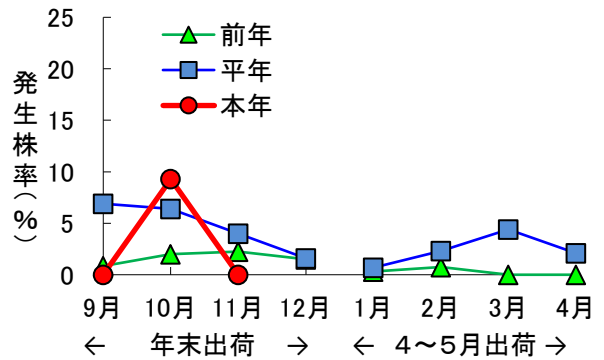


図1 アザミウマ類のキクでの発生推移

3. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査

発生株率：4.0% (平年 4.5%、前年 7.3%)

平年比：並〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

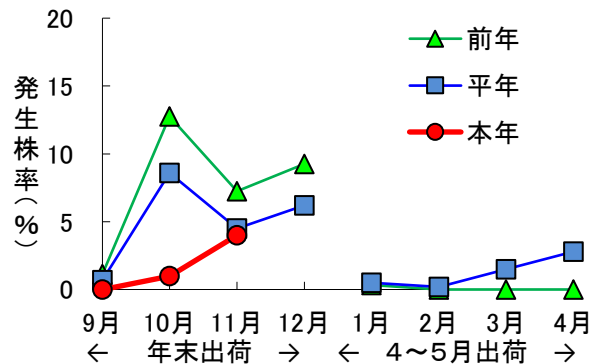


図1 ハダニ類のキクでの発生推移

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部

〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088

TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085

Mail nougyougi_jutsu@pref.saga.lg.jp

ホームページアドレス https://www.pref.saga.lg.jp/ki_ji00321899/index.html

